

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
<p>法人創設より21年目となる2016年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、新たな一步を踏み出す年である。2016年4月に居宅介護支援事業所「オリμπア呉」をオープンし、オリμπアの取り組みを県外にも広げることでオリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」にさらなる貢献をすることが可能となる。また、政治・経済状況の変化や介護報酬改定等、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、その時々ニーズに応じた事業展開・サービス提供を実施することが求められる。これらの取り組みを具体化するために、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリμπアの理念の実践に貢献することができる人材を確保し、その育成に注力する。更に、オリμπアの取り組みを多くの方に伝えるために、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。日々目まぐるしく変化する社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていくことが求められる。新総合事業への対応等、様々な課題は抱えているが、初心を忘れず、常に新しいことにチャレンジし続けることができる、新しいオリμπアを目指す1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。</p> <p>2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポールなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢の分析を行う。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。</p>			

施設	特別養護老人ホーム オリンピア	報告者	施設長 太西 裕二
事業目標	1. 安定した財政基盤を確立する。 2. 社会・地域ニーズの掘り起こしとそれに対応した事業の展開。 3. 法人内外におけるリソースパーソン発掘と、幅広い分野で活躍できる人材の育成。		
概要	<p>オリンピア設立から満20年を迎える記念すべき年。介護サービス事業者としての本来の役割を更に充実させることはもちろん、多様化する社会や地域のニーズに柔軟に対応出来る、総合的な福祉機能を兼ね備えた施設として新たな1ページを、その歴史に刻み始める年でもある。現在提供しているサービスの更なる拡充を図り、オリンピアの認知度を上げる。それに伴い、安定した財政基盤を確立し、更なる事業展開へのステップとする。サービスの質を高めるためにも、スタッフ一人一人の資質向上だけでなく、チームとしての成熟を図る。また、居宅サービス等を足がかりに、外部との連携も強化し、社会や地域のニーズを踏まえた諸問題に取り組む事を使命とし、総合的かつ複合的な事業展開を行っていく。</p>		
事業計画	<p>1. 現在提供しているサービスにおいて、その質を更に向上させることにより、安定した利用率、ひいては安定した財政基盤を確立する。安定した収入が無ければ、質の高いサービス提供も、ニーズへの柔軟な対応も、新たなチャレンジ実現が困難になると考える。よって、すべての活動の根源として、安定した財政運営を基盤とすることを目標とする。具体的な活動としては、・各部門の予算達成のための取り組み・利用者、地域、社会へのPR活動・スタッフ一人一人およびチームとしての成熟のための研鑽・部門間の連携強化・大規模修繕によるハード面の改善などが挙げられる。</p> <p>2. 震災復興の中で置き去りにされがちであった高齢者に手をさしのべる事から始まったオリンピア。しかし、震災より20年が経ち、高齢者を取り巻く環境も、介護への認識も、社会のシステム自体が大きな変化を遂げてきた。社会の変化により、抱える課題やニーズも変わってきており、常に『今』のニーズを捉えながら活動していく必要がある。また、法人が担うべき社会貢献を意識しながら、地域福祉の中核となるべくオリンピアの役割も併せて確認する事でよりきめ細やかなニーズに対応出来る事業展開を行っていく必要がある。その為には、時には事業の枠組みを柔軟に変化させながら、時には新たなチャレンジを試みながら前に進んでいかなければならない。しかし、いかなる場合も、オリンピアの理念である『ノーマライゼーション』と『パーソンセンタードケア』を、活動の根拠としていることは言うまでも無い。具体的な活動としては、・地域ケア会議等への積極的な参加・地域事業の更なる展開・近隣自治会等との協働など。</p> <p>3. スタッフ一人一人のスキルアップはもちろん、チームとしての成熟を図るためにも、『連携』をキーワードに、職種を超えて、相互の関係を強化し、部門を超えて補完しあえる体制を築く。また、施設内で完結することなく、外部にもそのネットワークを拡げ活動のキーパーソンを発掘し、地域との連携も強化する。地域の人・物・アイデアが集まる地域福祉の拠点になるべく、活動を拡げていく。具体的な活動としては、内外の研修へのスタッフ派遣・チームワークを意識した役割分担・地域食事会の拡充・広報活動の拡充・地域のリソースパーソンを招いた勉強会の開催など。</p>		

事業計画

2016年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	太西 裕二
事業目標	1. オリンピアの理念の具体化 2. 健全な財政基盤の確立 3. 地域ニーズに応えられる施設づくり 4. 専門性の高い人材育成材と意欲をもった人材確保 5. チャレンジし続ける施設				
事業計画					
<p>1. 利用者の皆様が『その人らしく』生活出来るよう、尊敬と思いやりの心をもってケアをさせていただく。スタッフ個々はもちろん、チームワークの資質向上を目標とし、自らの役割を認識しながらも、その職域を超えた連携を確立する。20年の歴史と最新の理論から導かれる根拠に裏付けられたケアを、スタッフ全員が誇りを持って提供できる施設づくりを実践する。また、その実証として、第三者評価を受審し、客観的な評価を得る。2. 年間利用率の目標を102%とし、多くの利用者に、オリンピアのケアを実感していただき、リピート利用していただく。そのことによって、安定した財政基盤を確立する。また、介護保険収入だけに頼らず、多岐にわたる事業を展開し、収入の上積みを図る。3. 地域の福祉拠点としての役割を認識し、他部門と協働して、積極的に外に出る事を意識したプログラム展開をおこなう。4. 新規学卒者はもちろん、介護職経験者へ働きかけ、新しい介護の可能性への意欲のある人材を確保する。また、現スタッフについても、個々の特性を活かし、専門性を高める人材育成を行い、その専門性がオリンピアの特色として発揮出来る環境を作る。5. これまでの枠にとどまることなく、失敗を恐れず、常に新しいことに挑戦し続ける。それが出来る施設風土を確立する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.年間利用者数7,620人(29.5人/日)を目指す 2.コストを見直し、不要な部分はカットする 3.質の高いサービス提供に努める				
事業計画					
<p>1. 年間利用者数7,620人(29.5人/日)を目指す:昨年度の計画より1名アップの数字をクリアし、お一人おひとりに寄り添ったサービスを提供する。各種イベント等にも力を入れ、新規利用者獲得に動く。また、基準該当サービスで障害者の方にも喜んで頂けるサービスを提供する。</p> <p>2. コストを見直し、不要な部分はカットする:年間640万を支払っていたMKタクシーの委託を見直し、自前のドライバー獲得を目指す。他社の派遣ドライバーを使った場合で年間130万のコストカットになる。完全に自前のドライバーで回せた場合は年間300万のコストカットとなるので、その体制を整備する。</p> <p>3. 質の高いサービス提供に努める:利用者数が伸びる中、スタッフ数は減少している。業務内容やシフトの回し方を工夫しながら、すべての方に喜んで頂けるサービス提供に努める。オリンピアの理念に基づいたケア実施の為、研修会や他機関との交流を通して得た情報を活かし、スタッフの質を高めて利用者様・家族様のニーズに応えていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピア	部門	サテライトデイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.年間利用者平均12人を目指す 2.登録者数80名への増加と維持および長期欠席者を半減させる				
事業計画	<p>1. 年間利用者平均12名を目指す: 2015年度は平均11.9名となる見込みである。介護保険のサービスへの移行が2014年度の5名から約3倍に増え16名となり、予想を下回る結果となった。要因としては全体の平均年齢の向上があり、サテライトに通える限界まで来て頂いていたことが挙げられる。その中でオリンピアのサービスへの移行となった方は1名から6名となり、オリンピア内での連携が取れてきている。この部分は伸ばしつつ、少しでも長い間サテライトに通い続けることが出来るようレクリエーションの工夫やスタッフ間の連携を強化していく。</p> <p>2. 登録者数80名の維持と長期欠席者を半減させる: 上記の通り介護保険への移行は16名と増加したが、登録者数は年度当初から5名減の79名で終える見込みとなっている。来年度は特定事業への移行期間となり、他事業所からの利用者編入を想定している。そのため火曜日以外は20名以上の登録も視野に入れ、1人でも多くの方にお越し頂けるよう努める。現在半年以上欠席されている方が6名おられるので、2016年度中に半減することを目標に訪問などの関わりを持っていく。また時事関連のレクリエーションや、イベントとしての外出行事の検討を行い、利用者の方に継続的に参加して頂けるよう努めていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1.財政基盤の確立 2.認定調査の資質向上 3.居宅介護支援の質の向上 4.地域、他事業所との連携				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立: 要介護者プラン件数年間970件、要支援件数年間200件を目標とする。新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。</p> <p>2. 認定調査の資質向上を図る: 認定調査の研修に参加する。また、神戸市e-ラーニングを活用する事で認定調査の資質向上を図る。</p> <p>3. 居宅介護支援の質の向上: 月1回は自宅訪問を行い、状況把握し、モニタリングを行う。定期的カンファレンスを行う事で住み慣れた地域での生活が安全に継続できるように支援し、見守っていく。また、研修に参加する事で知識を習得し、介護保険以外の地域サービスも組み入れていく。</p> <p>4. 地域、他事業所との連携: 地域の高齢者の相談に対して親身になり対応する事で住み慣れた地域で生活できるよう支援する。また、圏域のあんしんすこやかセンターや他事業所と連携を図り、困難事例も対応できるようにする。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括支援センター	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される。 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業計画	1. 積極的な地域行事への参加、各圏域民児協定例会や高齢者対象事業への支援、圏域内各種事業所への訪問と、高齢者や介護に関する資料配付や情報提供を通じて、センターの認知度を広める。 2. 地域ケア会議を開催し、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、関係者間のネットワークを広げ、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。高齢者の居場所づくりや地域の困りごと等の解決方法を話し合うことにより、地域資源の新規開拓や発掘を支援する。今後、増加する認知症の方のケアに関して、認知症サポーター養成講座の開催や、認知症サポーター店の新規開拓、小学校でのキッズサポーター養成の学習会実施などを通じて、地域で認知症の理解が進み、認知症ケアの担い手が増えるように支援する。 3. 民生委員や老人会、婦人会など高齢者に関わる地域の人的資源の新たな発掘、ネットワーク作りを推進する。 4. これらのことが実施できるように職員の資質向上とコミュニケーション能力の向上など、研修受講や情報知識をし、人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や専門知識の習得に努めていく。 5. 新しい総合事業に関する情報収集と今後のセンターの役割についても考え、準備する。				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者の生活の質の向上 3. 地域との交流 4. 職員の資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践		
概要	<p>オリンピア灘は、通い・憩いの場としての通所介護、生活の場としてのグループホームと、住み慣れた地域で継続してケアを受けることができるホームとして、地域に根ざすべく努力を続けていく。そのために利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、理論に基づいたより高い質のケアのために、職員が自発的に自信のレベルアップを目指し、ケアの中で実践できるように取り組んでいく。また、地域のニーズに応えることができるように、情報の発信源となり、情報を発信し続けていく。特に今年度は灘区内の修道院の方々の生活のお手伝いを、オリンピア灘のケアのノウハウをもってさせていただく。更に、灘区内のオリンピアの高齢者部門・保育部門・障害者部門との協力体制を密にし、地域のすべての方々のニーズに応えていくことを目指し、チャレンジを続けていく。</p>		
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立: 収入の安定を図り、事業運営を円滑にする。そのために、入居者、利用者の利用率を高めるとともに、体調の変化による入院等のリスクを減らし、安定した利用率をキープする。常に入居者・利用者ひとりひとりの状態を的確に把握し、迅速に対応する。様々な情報に対してアンテナを張り巡らせ、新たな収入源の可能性についても検討していく。</p> <p>2. 利用者の生活の質の向上: 「生活の主人公」である利用者が、一日一日をその人らしく充実した生活を送れるようお手伝いする。日々の何気ない会話の中から利用者の「したいこと」「できること」を的確に把握し、職員間での情報の共有を図る。また、グループホームに入居していても、夢を諦めるのではなく、新しいことにチャレンジしていただけるように支援を行う。また、グループホームの共用スペースで実施している「共用型デイサービス」のメリットを活かし、入居者と利用者との関係づくりに取り組む。その他、入居者・利用者の夢や希望について情報収集を行い、旅行やふるさと訪問など「夢のプロジェクト」にもチャレンジを続けていきたい。</p> <p>3. 地域との交流: 日々の散歩や買い物等の外出、地域で行われる行事に参加等、積極的に地域交流する。またSalon de l'Olympia Nada等のイベントを活用することによって、地域に開かれた、地域に根ざしたホームとしての役割を果たしていけるよう、常に様々な情報を発信し続け地域のニーズに応えていく。さらに、灘区内における新規プロジェクトの可能性を検討し、ひとりでも多くの方にオリンピアのケアを提供できるように努力する。そして、高齢者だけでなく幼児から大人まで様々な方々が気軽に出入りできるホームを目指す。さらに、実習生・ボランティア・見学者の受け入れも積極的に行うことにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>4. 職員の資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践: 職員全員が「オリンピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。また、オリンピア灘での取り組みやその成果を、「新しいケア」としてさまざまなメディアを通じて外部に発信していく。職員全員がそれぞれのキャリアや希望によって積極的に法人内外の研修に参加し、スキルアップを図ることができるように支援する。特に、リーダーが中心となって実施している「パーソンセンタードケア勉強会」は今年度も継続して行い、認知症ケアを理論の面からも学ぶことによって、より高い質のケアの実践につなげていく。</p>		

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画	<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践し、入居者ひとりひとりの思いや意向をしっかり受け止め、叶えていく。定期的なカンファレンスにより、理念に沿ったケアができているか振り返り、更なる成長へつながっているか評価する。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:職員は得意分野ではリーダーシップを取り、不得意なところはチームでフォローし合える環境を作る。共に学び、成長し合うという環境を作り、職員全員が誇りと自信を持って働けるようにする。リーダーは職員ひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握し、チーム全体で課題を解決していく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:オリンピアに携わるすべての人々が、希望の光として輝き、地域に出かけ、「高齢になっても今まで通り誇りを持って安心して暮らせる生活」ができることを実証していく。また、地域に向けて認知症理解に向けた講演会を行い、各種イベントを通して啓発活動を行っていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率98%を目指す。入居者ひとりひとりの小さな変化に気づき、早めの対応を行い、入院を未然に防ぐ。日頃から支出を見直し、新たな収入源を得るため、新しいことに挑戦していく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:年間利用平均2.0人/日以上を目標とする。登録実人数9名以上をキープできるよう、地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を継続的に行う。また、全職員が「コーポレート・アイデンティティ」を共有し、職員全員が情報の発信源となる。</p> <p>2. サービスの質の向上:共用型デイサービスの特徴を最大限に発揮し、お友達の家遊びに行く感覚で利用していただき、グループホームの入居者の皆さまと一緒に、それぞれの趣味や特技を活かしてその人らしく過ごしていただく。そのために、利用者おひとりおひとりのアセスメントをしっかり行い、生活歴を把握し、利用時に活躍していただける場を提供する。入居希望の方には入居者、スタッフとの馴染みの関係、馴染みの環境の中で長期にわたって安心した暮らしを送っていただけるよう、オリンピア灘での生活を体験していただく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>福祉を取り巻く状況が大きく変化する中で、2016年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。これまでの取り組みをふり返し、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。そのために、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち返し、ケアのあり方組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけでなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。</p>		
事業計画	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化:「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立:安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的実施することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦:地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成:オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>		

事業計画

2016年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	・ご入居者の安心・安全を支えていく。 ・地域に根ざした入居者、ご家族の楽しい生活を常にめざす。				
事業計画					
1. ケア理念の遵守 ユニットビジョンを明確にし、生活の場にふさわしい環境作りを行う。 入居者おひとりおひとりへの個人理解を追求し、持てる能力を最大限に発揮しながら生活をしていただくことが出来るような「お手伝い」を行う。 グループダイナミクスの効果を活かし、おひとり、おひとりに役割や責任を持っていただき「生活の主人公」としてふさわしい生活を実現する。					
2. 地域に密着した運営を行う。 運営推進会議の内容の充実、ケアへの繁栄に結びつける。 地域各種団体との連携を図り、地域行事等の参加を積極的に行う。					
3. スタッフの資質向上をめざす。 ケアのみならず、マナー、接遇に対しても学ぶ機会を持ち、内部、外部に対しても気持ちの良い環境をつくる。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1.広報活動 2,スタッフの資質向上 3,サービスの向上				
事業計画					
1. 広報活動;今年度の予算を達成するにおいて必要不可欠なことは居宅支援事務所への積極的なアプローチである。既存の関係性を持つ居宅支援事務所にはより密な関係を図る。またあまり関係性がない所へはイベント情報等の発信をきっかけに新たな関係性の構築を図る。また広報活動の場として今後病院内にある地域連携室や老人保健施設の相談員へと視野を広げ広報活動を行うことで部門だけではなく法人の広報も兼ねる。					
2. スタッフの資質向上;資格取得の為のバックアップを行うことで個々のスキルアップを図る。また法人内外における研修への積極的な参加を図ることでスタッフの介護職としての資質だけではなく人間性の向上にも努める。					
3. サービスの向上;ショートステイにおいて提供するサービス向上の為にユニットリーダーを中心として理念と3つの約束を改めて確認することでケアの方向性の決定とそれを基本として新たなサービスの展開を図る。具体的には保険外での企画実施。日帰り旅行や国内の一泊旅行、その経験を積むことで海外旅行も視野に入れ計画的にスムーズに進めていく。またその他に地域における活動の一つとして緊急ショートの受け入れを前向きに行うことで日々介護で悩む方々をひとりでも多く救うことで地域に貢献をしていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 教育事業の継続実施				
事業計画					
1. 2016年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバー参加を目指す。					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入、実施する。					
2. 地域との密着					
地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する。					
3. 人材育成の強化					
兵庫区内デイ事業所相互の交換研修制度を2016年度内に確立する。					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う。					
4. 教育事業の継続実施					
初任者研修事業3年目に向けて、法人外受講生募集を強化し、対外的に活動をアピールする。					
人材確保の一環として初任者研修を利用する。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援が単なる家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、自らの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：介護職員初任者研修の実施によりヘルパー業務に携わることのできる人員を確保する。また、定期的実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。					
4. 保険外サービスの具体化：新総合事業開始が目前に迫っている。家事サービスは介護保険から外されていくなかで、ただの家事ではなく「オリンピアにしかできないサービス」を展開し、保険外サービスの充実を図る。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:2016年度の収入予算を達成する。支出にも留意し、法人の財政基盤の確立に貢献する。</p> <p>2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、関係機関、病院、あんしんすこやかセンター、他のサービス事業所との関係づくりを常に行い、利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。</p> <p>3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度の情報も意識して収集を行っていく。</p> <p>4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。相談を親身に行い、利用者、利用者家族が心して在宅生活が送れるように支援を行っていく。</p> <p>5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月のアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、多(他)職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。</p>				

施設	オリンピック都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. 幼保連携型認定こども園としての事業展開 2. 教育・保育内容の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携		
概要			
<p>2016年4月より、幼保連携型認定こども園オリンピック都こども園として新たな事業展開をおこなうこととなる。</p> <p>オリンピック都保育園として11年間培ってきた養護と教育をもとに、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって、ひとりひとりがよりその子らしく輝けるように、園におけるあそび・生活をとおして、生きる力の基礎を育成できるように努めていく。また、地域の子育て拠点としての役割を意識し、在園児・未就園児の区別なく、すべての子ども、すべての子育て世帯に向けて質の高い教育・保育を提供できるように努める。そのためには、保育教諭だけではなく、子どもにかかわるすべての大人がオリンピックの理念を理解し、実践できるように、互い切磋琢磨し、協力し、教育・保育の質の向上を目指していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 幼保連携型認定こども園としての事業展開 : 乳幼児期の特性及び保護者や地域の実態を踏まえながら、ひとりひとりの子どもが心身ともに健やかに育つことを目標として、オリンピックらしい事業を展開していきたい。保護者・地域への情報発信をていねいにおこない、互いの関係性の中で信頼を得られるように、また、健全な運営がなされるように努めていく。</p> <p>2. 教育・保育内容の充実 : 従来の0歳児から5歳児の発達の連続性を意識した個別計画、あそび、生活のなかで、その年齢が経験すべき活動の計画とともに、3～5歳児の教育を、義務教育及びその後の教育の基礎を培うための活動と捉え、どのような活動計画がふさわしいかを考えながら進めていける一年としていく。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実 : オリンピア都保育園は年間延べ約1,000人の一時保育利用児を受け入れてきた実績から、今年度も仕事・緊急・子育て不安などさまざまなケースに応じた一時保育の受け入れを積極的におこなう。未就園児に向けたプログラム(子育てサロン・園庭開放・子育て講座・親子ふれあい遊び・体験保育など)の充実から、利用者・リピーターの増加につながっている。すべての子どもに開かれた保育園として、こども園の利用に結び付くような魅力的な活動を展開していく。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上 : 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るためのていねいな援助やかかわりである「養護」と、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を、環境をとおして提供できるための資質向上を図る。</p> <p>5. 関係団体との連携 : 聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。養成校との連携を深め、積極的に実習生の受け入れ、指導をおこなう。次世代育成プログラムとして地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。また、子どもの成長の連続性を確保するため、小学校との接続を強めていく。そして、地域にあるこども園として、地域の皆様のご理解ご協力に感謝し、地域行事への参加、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p>			

施設	オリンピック神戸北保育園	報告者	園長 中久木 康弘
事業目標	1. キリスト教保育に則り「一人ひとりを大切にする保育」の充実 2. 「スタッフ研修」の充実 3. 「地域の子育て支援施設」としての機能の強化 4. 財政の健全化		
概要			
<p>法人基本方針「イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、その人らしく光り輝いて暮らすことができる社会を実現する。」というに則り、神様によって創造されたかけがいのない存在として一人ひとりの子どもを受け容れます。</p> <p>「今日一日を精一杯生き、心から楽しむ」ことのでき、こどもたちが、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活ができるように、担当制保育を行い、日々の生活の中で、こどもたちが、自分で主体的に選択、判断し、責任をもって遊ぶことができる環境を提供します。</p> <p>地域における子育て支援のために、保育に関する相談に応じ、社会的役割を果たす。</p>			
事業計画			
<p>「一人ひとりを大切に、主体的に育つ保育」の充実と質の高い保育。</p> <p>子どもを取り巻く「保育環境」を整える。そのため、園の中に家庭と同じような環境を整え、保育園が子どもにとって居心地の良い場所にし、さらに衛生的で整理が行き届き秩序があって美的な環境を維持する。</p> <p>子どもが安心して過ごせるように、「流れる日課」と担当制を充実させ、一人ひとりの子どもの行為や生活全体がスムーズに流れ、不必要に待つ時間や中断されることのない日課の作成。</p> <p>日課を一斉に行わず、子ども一人ひとりの生体リズムや生活リズムを考慮し、一人ひとりに合わせ担当グループを作り、それをクラス全体にのり取り込み、それぞれが円滑な連携を図り進める。</p> <p>「地域の子育て支援施設」としての働きの充実。</p> <p>家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康かつ安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、健全な心身の発達を図る。</p> <p>子育て支援事業のバリエーションを工夫し、充実させる。</p> <p>「スタッフ研修」の充実。</p> <p>キリスト教保育の実践者としての外部研修の強化。</p> <p>礼拝の充実と日常的な聖書からの学びの姿勢を整えるための工夫をする。</p> <p>「地域及び関係団体との連携」の充実</p> <p>地域自治会等との関係を密にし、地域に根ざした福祉施設としての働きを進める。</p> <p>行政・警察・消防等の組織との関係を図り、施設運営のための理解を図り、危機管理等を強化する。</p> <p>保育園関係団体(私立保育園連盟・日本聖公会保育連盟・キリスト教保育連盟)等の連携を進める。</p> <p>「財政の健全化」</p> <p>健全な財政運営のため、予算管理のできる基礎データの作成に努める。</p>			

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 地域の拠点になる		
概要	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、新たなチャレンジへの7年目を迎える。今年度のチャレンジとして、隣接地、明石への事業拡大と、広島県 呉市への進出である。西区の地域に根付いたように、明石での新たな開拓、そして、他府県への進出に関しても、法人との新たな架け橋を担う事業として、前向きにチャレンジしていく。</p> <p>"その人らしい"暮らしの実現という理念に基づいた取り組みを大いに実践し、地域と光朔会を担う事業展開を試みていきたい。また、お困りの方を支援するという理念に基づいた取り組み、未開の地で、地域に密着した形で、今まで積み重ねてきた経験を生かし、地域との協働を通して、地域への文化の発信をしていく。地域と共に成長し、活気溢れる街作りの一端を担うために、有事に備えて準備の出来る、魅力あるチームを目指していく。</p>		
事業計画	<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することにより、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送るサポートを継続していく。おひとりおひとりの声に耳を傾け、その方に寄り添い、多くの方の夢や希望を実現する取り組みに、一緒にチャレンジする。この実践を通して、おひとりおひとりが本来持つ力を引き出し、生活の主役を担って頂くと共に、そこに携わるスタッフも共に主役を担える、オリンピアに関わる全ての人々に、希望の光を生み出せる事業展開を目指していく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:新規プロジェクトが一日も早く軌道に乗れるよう、既存の部門が中心となり、神戸西が一丸となって、財政基盤の安定に繋げる、チャレンジを実践していく。具体的には、居宅介護支援での新規利用者・新天地の開拓、特養・多機能の稼働率95%以上の推移を目指していく。その上で、施設運営の課題である人材確保ルートの見直しや、助成金の申請での新たな収入源、環境整備による支出見直しを実践していく。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践:地域との実践を生かしたノーマライゼーションを積極的に発信し続ける。地域交流室を活用し定期的な講演会やコンサートを実施、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、誰でもが友人の家に遊びに来られるような場所にし、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶コーナーが憩いの場となるような地域貢献を担って行きたい。就労支援事業所との連携により、地域で障害者が普通に暮らせる仕組みを地域住民と共に構築し、お困りの方が一人でも多く、光朔会での関わりを通して、輝けるよう社会貢献の一端も担っていきたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立:利用者おひとりおひとりに対して、施設でのケアで完結するのではなく、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる提案をする。ユニットリーダーを中心に、世代を超えた意見交換の場や新しいケアでしか見出せない実践を重ねていく。多くのチャレンジと、その取り組みを通して、人材を育成し、日々のケアの充実を図り、新たなPR活動にも繋いでいく。</p> <p>5. 地域の拠点になる:隣接の公民館や児童館・保育園等の各機関との協働、神戸市を運営母体とする他業種と社会福祉法人光朔会の当事業所との相互補完的な新たな取り組みを見出す。他府県への進出プロジェクトに関しては、地域のコミュニティ作りに関与し、高齢者の相談窓口の立ち上げから始めていく。法人との架け橋を担う事業になるよう、年度内での事業の立ち上げ、安定した収益に繋がる運営を目指していく。</p>		

事業計画

2016年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	有山 敦則
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの資質向上とチャレンジ 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:2015年度から登録者数が29名に増加し、昨年の10月に29名の登録者数を確保することができた。ノーマライゼーションの理念に則り、どんな方でも受け入れて、通い、宿泊のサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ利用者にあわせて支援し自宅での生活を継続させる。ご本人の要望だけでなくご家族様の希望も取り入れ、安心できる暮らしができるようにスタッフはチームワークをもって関わっていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:収入目標 76,000千円。登録者数を29名確保し、安定した収入を確保する。各種加算が算定できる対象となるように、スタッフの体制作りを行う。</p> <p>3. スタッフの資質向上とチャレンジ:全員がこれまで慣れている業務を捨てて、新たに構築していく必要がある。スタッフの介護経験の有無に関わらず、オリンピックで求められるノーマライゼーションのケアを実現させる。リーダーを中心に、スタッフの個々の能力を見出し、スタッフ一人ひとりが活躍できる職場作りをしていく。</p> <p>4. 地域の拠点作り:地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。老若男女問わず、沢山の地域住民が訪れる拠点を目指し、相談窓口として地域に貢献していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える 2. 財政基盤の確立 3. 人材育成とスタッフの定着 4. 地域共生				
事業計画					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピックの理念を遵守し、入居者の尊厳を守ることで、入居者自身が自己選択・自己決定・自己実現できる入居者主体のケアを行い、「自分らしい」生活ができる環境を提供する。また、入居者の思いを実現するお手伝いをすることで、入居者・スタッフが感動を共有し、いつまでも未来に向かって挑戦し、成長し続けるチームを目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用収入目標105,601千円。平均要介護度3.9~4.0。入院者が出た際には、空床シートを利用頂き空室を最小限に抑えられるように迅速な対応を行う。年間利用率98.0%を目標とする。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着:スタッフ各自がオリンピックの職員としての自覚を持ち、ケアの質の向上を図るために内部・外部の研修や勉強会の参加、各種資格取得等に積極的に取り組む。また、リーダーが中心となり、ユニットケアに取り組むことでチーム力を高め、スタッフの定着に繋がるようにする。</p> <p>4. 地域共生:地域の一員として、特別養護老人ホームが有する資源やノウハウを活用することで、地域の高齢者の相談窓口としてのポジションを確立し、また、施設と地域、双方向の交流を行うことで「まちづくり」に貢献する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	芦田 智子
事業目標	1. 地域の介護相談窓口としての役割 2. 他部門や地域との連携 3. 居宅介護支援の質の向上 4. 財政の安定				
事業計画	<p>1. 地域の介護相談窓口としての役割: 公平中立な視点に立ち、様々な相談に対して柔軟に対応する介護相談窓口としての役割を担う。地域の高齢者をはじめ高齢者を支える地域住民が住みなれた地域で安心して生活を継続できる環境を整える事が出来るように支援する。</p> <p>2. 他部門や地域との連携: 特養・多機能との連携を密にし地域の方々に神戸西の機能を最大限に活用して頂けるような活動を行う。また圏域地域包括支援センターをはじめ保険・医療・福祉の関係機関や民生委員等との関わりを持ち、困難事例にも積極的な関与をする事で地域からの信頼を増進させる。</p> <p>3. 居宅介護支援の質の向上: 常に利用者の立場に立った居宅介護支援を行うための幅広い知識と柔軟な発想や対応が行えるように各種研修・講演会に参加し自らを研鑽する。また、法人内の居宅介護支援事業所とも連携し情報交換することで多くの情報を得、より利用者に満足頂けるような質の高い居宅介護支援を行う。</p> <p>4. 財政の安定: 年度当初から常勤ケアマネ2名での稼働を基本とし、徐々に稼働率を向上させ年度後半には95%の稼働が維持出来ることで安定した収入を確保しつつ必要経費を最小限にとどめ効率的に業務を行う。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 3. 財政基盤の確立 4. 今津高層住宅の自治会との協働				
事業計画	<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立: シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認、コミュニティづくりに役立つ支援。一時的な家事支援、緊急時の対応、関係機関等との連携、その他、日常生活に必要な支援。</p> <p>2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開: 神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を確保する。公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し、高齢者をはじめとした地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりに努める。専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。法人独自の企画・運営を実践していく。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 利用収入目標 4,100千円。コミュニティづくり事業を積極的に行う。</p> <p>4. 今津高層住宅の自治会との協働: シルバーハイツが入っている県営の今津高層住宅自治会との協働により、シルバーハイツの入居者が、いつまでも“その人らしい”暮らしを実現するための支援を行っていく。社会資源の情報提供等をはじめ、神戸西の協力を仰ぎながら、自治会担当者を支援・協力し、繋がり礎を深めていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	寺次 勉
事業目標	1.地域に根付いた拠点の確立 2.新しい事業への挑戦 3.財政基盤の確立 4.広報活動の強化				
事業計画					
<p>1. 地域に根付いた拠点の確立: 昨年の10月よりオリンピック明石居宅介護支援事業所を運営しているが近隣住民を始め、他の介護保険事業所にも、まだまだ認知度が低いのが現状である。この状況を打開するために今以上に地域に出ていき近隣の自治会や学校などとの繋がりを通してオリンピック明石の知名度を向上させていく。</p> <p>2. 新しい事業への挑戦: 将来的には明石市に高齢者総合施設オリンピック明石を作ることを目標に据え、現在の居宅支援事業所に併設する形で今年度中に新しい事業をスタートさせたい。介護保険事業で訪問系サービス事業の展開を検討し人材の確保、新規指定事業指定申請へと準備を進めていく。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 前項にも挙げているが新しい事業へ挑戦し健全で安定的な収入を確保する。また介護保険の報酬単価も下がる一方なので利用者が必要で介護保険では提供できない自費サービスの提供に注力した事業を展開することで利用者の生活の質の向上に貢献する。</p> <p>4. 広報活動の強化: 病院や地域包括支援センター、近隣住民や学校に訪問して広報活動を強化することで前項に挙げている事業計画を完遂する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1.新天地の開拓、新しい事業所・地域の高齢者の総合相談窓口の開設 2. 財政基盤の確立 3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う				
事業計画					
<p>1. 新天地の開拓、新しい事業所・地域の高齢者の総合相談窓口の開設: 初めての県外進出の事業である。まず開設の認可をおろし、早期に健全な運営に繋がられるよう、高齢者の総合窓口となる拠点作りを目指していく。呉信愛教会、登町自治会、寺迫自治会等、地域と繋がり、「いくつになっても自宅で安心して生活できる地域」作りを支援する事業者として、独自性のある活動を実践していく。光朔会独自の文化の発信もチャレンジしていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立: はじめての他府県への進出・事業拡大に際し、現地での人材確保、新しい事業もしくは施設を誘致する地域開拓、健全運営を目指す。年度内の最終目標利用者数 要介護者 20名 要支援者 8名。</p> <p>3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う: 地域の高齢者に対して行われている自治会活動に参加する事により、オリンピック呉の存在を定着させていく。また、事務所が旧幼稚園舎跡地にあり、園舎及び敷地内のスペースを、如何に有効活用していくか、そこに入り出す他団体と如何に繋がり、どのような事業を創造できるかが、鍵になっている。神戸西の開設時同様、介護保険事業の実働前に下準備が必要だが、法人独自のネットワークや経験を活用し、そのプロセスが、No.1を目指す事業展開の糧になるチャレンジをしていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(学童保育) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
概要			
<p>オリンピアの理念のもと、利用者ひとりひとりが安心して過ごせる場の提供をし、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。放課後児童クラブにおいては、高学年の受け入れと19時延長の実践を行い、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。一般来館児童と放課後児童クラブの児童の交流が図れるようにプログラムのさらなる充実を図る。また、親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるようにし継続利用につながるようにする。また、保護者との信頼関係がより強固なものとなるように努力をする。</p> <p>コミュニティ事業を通して地域との連携がしっかりとできるようにする。職員ひとりひとりのもてる力が最大限に発揮でき、成長できるようにする。地に足の着いた運営がしっかりとできるように取り組んでいく。</p>			
事業計画			
1. 児童の健全育成			
遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように配慮する。			
子どもたちが安心して過ごせる場となるように環境整備をすると共に、職員も子どもたちの遊びに関わり、個別的・集団的に援助していく。また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを見守っていく。			
親子での参加行事や、地域の方との交流行事、季節行事、月行事など内容の充実を図り、楽しさを提供する。			
2. 子育てと家庭の支援			
子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるように下記の事業を実施する。			
*すこやかクラブ *キッズクラブ *つどいのひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママのリフレッシュタイム 子育てママのティータイム) *子育て母親対象講座 *子育てコミュニティ育成事業 *親と子のふれあい講座			
3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ)			
適切な遊び及び家庭的な雰囲気をもった生活の場を提供し、児童の健全な育成をはかる。また、それぞれの学年が様々な生活の場面で協力し合い、集団モラルを学べるように配慮する。			
お誕生日会やお楽しみ会などの行事を通して、子どもの心と体の健康を図る。			
児童館行事に積極的に参加し、一般来館児童との交流ができるようにする。			
4. 地域への貢献			
地域の方が今までと同様、利用しやすい場の提供に努めるとともに、子育て支援・家庭支援につながる地域社会を目指し、一緒に楽しめるプログラムを年間を通して実施していく。			
5. 職員の資質の向上			
光朔会オリンピアの一員であることの誇りを持ち、児童館職員であるという自覚と責任をもって行動する。			
オリンピアの理念に則り、利用者ひとりひとりに対して個を尊重した対応をしていく。			
職員ひとりひとりのもてる力を最大限に発揮することで、職員の自信につながるように配慮し、さらなる成長を図る。			
指導員研修や支援員研修、合同行事から学んだことを活かしていく。また、日々の活動を振り返り、次につなげるための反省ができる素直さと積極性を大切にできるようにする。			

施設	障害者就労支援センター オリンピア岩屋	報告者	管理者 阪田 昌三
事業目標	1. 就労支援における働き方の模索 2. スタッフの資質向上 3. 地域自立支援協議会と関係機関の牽引 4. 将来ビジョンの具現化		
概要			
<p>就労継続支援B型事業が軌道に乗り、健全な運営が可能になった現在、これからは地域に密着し、就労支援だけでなく、生活支援も一つの事業所が担うのではなく、大きな枠組みを構築する中で見ていかなければいけない。就労は一般就労だけがGOALではなく、正社員、短時間、知人の紹介など地域で利用者一人ひとりにあった働き方の模索していく。生活支援においては、計画相談を伴う、日中以外での暮らしを他機関と連携しながら、広い視野で捉え考えていく。現在、数名の利用者は相談支援、ホームヘルプなど他機関とのカンファレンスを実施している。現在は間接的な支援になってしまうが、将来ビジョンとして特定相談支援事業や他事業への視野も入れて、情報収集や知識向上に前進していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 昨今、就労継続支援B型事業の在り方が多様化し始めていて、障害者自立支援法が施行された当時は、授産施設の移行先、また基準の満たないデイサービスの移行先としての流れがあり、就労へのステップとしての位置付けはようやく浸透してきたように思う。オリンピア岩屋では開所当時からいつかは巣立っていく通過事業所の役割と機能を果たしてきた。現にA型、移行、一般へ進まれた方は開所当時から数えると10名以上いる。これからも継続しつつ、新たにいろんな働き方について考えていきたい。具体的には現在作業受注しているお菓子の作業は4月から企業へ出向いて施設外就労として取り組む流れを導入。それが、利用者にとって継続出来るのであればステップアップし、企業に雇い入れる仕組みも模索していければと思う。働くといっても利用者の年齢、働きたい度合、給料などニーズがあるのでハローワーク等で対応できるもの、地域の中で発掘するなど分けていき環境を整える動きもしていきたい。</p> <p>2. 利用条件に障害種別を問わないことが地域に定着する中で、現在の利用者もこれから利用する方への支援の質の向上は必須である。特に2016年4月から施行の障害者差別解消法の定義である合理的配慮に関しては、企業や公共施設の前に福祉サービスを提供する事業所が牽引していくことが重要であり、それが啓発や周囲への理解につながる。支援と配慮の2点を職員一人ひとりが考え、区別をはっきり持ち行動していく。</p> <p>3. 地域自立支援協議会に参加し、就労作業の部会長としてオリンピア岩屋での活動を行政、他福祉サービス事業所へ発信していくことはもちろんのこと、地域における課題を抽出し連携して対応できる地域づくりの牽引役として活動していく。事業所間の連携や交流が希薄な中で風通しの良い環境整備を行い、地域に密着した利用者中心の福祉サービス、相談機能が発揮できるように取り組む。</p> <p>4. 法人に就労継続支援B型2か所を運営する中で、地域課題、利用者にとっての生活を支える事業を模索していく。神戸市では特定相談支援の事業所が利用者数に対して不足しており、福祉サービス利用計画がセルフプランになっている方が多く、灘区も計画相談達成が50%に満たない。利用者の地域生活に密着した支援のきっかけを築く上で重要な支援を将来的に考えていきたい。しかし報酬、経営面など課題の検討していく。また、一人暮らしの高齢の親がいる家庭など、地域で暮らすことについて事業参入も試みたい。</p>			

施設	発達障害者サポートセンター オリμπピア住吉	報告者	大久保 知香
事業目標	1. 施設外就労の促進 2. 職員の障害理解と情報共有の徹底化 3. 作業環境の調整、整備 4. 自立支援協議会での積極的活動 5. 新事業の模索		
概要			
<p>利用者の増加、作業の安定化、自立支援協議会での役割等、様々な変化があった。それに伴う利用者ひとりひとりに対する支援、設備・環境の整備、地域での役割等の改めて検討しなくてはならない。職員も新たに成立した「障害者差別解消法」についても再度勉強をし、合理的配慮に基づいた支援を行っていく。</p> <p>東灘自立支援協議会では現在、施設間での移動をする利用者や、ステップアップに悩んでいる障害者の方に対して、気軽に他施設を見学できる日をつくるというプロジェクトが進んでいる。他の施設に見学へいけることで自分にあった場所を見つけることができる可能性が広がる。逆にオリμπピアに見学に来て、ここに通いたいと感じてもらえるよう雰囲気作りもしていく。</p>			
事業計画			
<p>1. お菓子の箱詰め作業を受注している工場での施設外就労を開始し利用者の能力向上、働くことの意識を高める。オリμπピア住吉内でもお菓子の作業をしていく中で、物足りなさを感じたり、もっと働きたいという利用者に対し、ここで頑張れば、施設外就労ができる、工場だけでなく、違う就職先へのステップアップになるよう支援を充実させる。また、御影クラッセにて定期的に行っている販売会へも利用者と参加をし、利用者が様々な方とふれ合う機会としコミュニケーションスキルの向上や、他の事業所を見て自分のもっている情報を増やしていただく場にする。</p> <p>2. 3年目を経過し、利用者も増え安定してきた。3障害一体ということで様々な利用者が通われている。新たに非常勤職員が増える中で職員の障害理解が必須になる。積極的に研修に参加をしていき、障害理解を深めるとともにその日にあった出来事や、疑問に思ったことを職員間でも共有していき、利用者が通いやすい環境、利用者ひとりに合った支援を職員が全員できるように技術向上していく。</p> <p>3. 現在、作業ではお菓子の箱詰め、ポストカードの出荷、管理作業が年間を通して安定している。利用者も増えたことにより、十分な作業スペースの確保が必要である。利用者の能力に応じた作業の分配、作業内容の明確化・視覚化、集中できる作業スペースの環境を整えていく。</p> <p>また、就労へのステップアップの方、就労経験の少ない方の経験の場、生活リズムの調整の場等、通っている利用者それぞれに合わせた作業時間、環境を検討していく。</p> <p>4. 東灘区自立支援協議会しごと部会の販売部門のチームリーダーを昨年度からしており、今年も引き続きすることになった。奇数月では御影クラッセにおいて販売会をおこなっており、年2回は全体販売会を行っている。会議の際はリーダーとして積極的に活動をしていき、関係者・機関との関係を築き、幅広い情報交換をする。販売会では自主製品の販売をただするのではなく、日々の活動の紹介やオリμπピアの情報発信を地域の方へ発信していく。</p> <p>5. 自立支援協議会の会議において事例検討会を定期的に行っている。その中で現在、地域で問題になっている事や課題を議論している。課題の中でオリμπピアが出来る事は何か、どのようなサービスがあれば障害を持った地域で安心して暮らしていけるのかを独自でも考えていき、模索していく。</p>			

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活できる住宅環境を目指す		
概要			
<p>サービス付き高齢者向け住宅の入居条件は60歳以上の方で非該当の方から要介護・認知症の方等、これまでの自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に、生活の質はこれまで通りのライフスタイルを続けて頂き、利用者の方が不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援により、その人らしい生活を送って頂く。外出同行サービスや趣味等のサークル活動に参加して頂き、豊かな時間と安心した暮らしを提供します。訪問介護事業所・通所介護事業所・居宅介護支援事業所を併設し、オリンピアで培った質の高いサービスを住宅部門は基より地域の方々へも提供していきます。また、ダイルールの空き時間を利用して、地域の方々との交流を図り、地域基盤を確立し、入居待機者及びデイサービス利用者を獲得します。</p>			
事業計画			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらないライフスタイルを継続して行ける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを応援します。入居者の皆様に「ここを選んで良かった」と思ってもらえる様な安心できる生活環境を提供していきます。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の方々に「安心してこれまでの暮らしを続けたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要があります。常時利用者の方が生活して頂ける状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居できるよう入居希望の待機者獲得に努めます。収支の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取っていくことで、コストを意識し収益の確保を行っていきます。</p> <p>3. 各種講演会やイベント開催:種講演会やイベントの開催を定期的に行い、近隣地域の方へ様々な情報を鶴甲から発信することで、入居希望の待機者及びデイサービス利用者の獲得に繋げていきます。</p> <p>4. 安全で安心して生活できる住宅環境を目指す:鶴甲が建てられて、まだ2年足らずですから、設備関係に大きな不具合は見受けられませんが、入居者の方が安心して快適な生活を送って頂くためには、日常の清掃は基より、定期点検にも細心の注意を配る必要があります。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の方の安全対策に努めます。また、非常災害時においても最大限に利用者の方の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていきます。</p>			

事業計画

2016年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	橋本 伸也
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活できる住宅環境を目指す				
事業計画					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続して行ける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを応援します。入居者の皆様に「ここを選んで良かった」と思ってもらえる様安心して生活環境を提供していきます。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心してこれまでの暮らしを続けていきたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要があります。利用者の方の入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居できるように入居待機者の獲得に努めます。収支の状況も的確に把握し、収益の確保を行っていきます。</p> <p>3. 安全で安心して生活できる住宅環境を目指す:鶴甲が建てられ、2年足らずですから、大きな不具合は見受けられませんが、利用者の方が安心して快適な生活をして頂くためには、日常の清掃は基より、定期点検にも細心の注意を配り、利用者の方々にとって危険個所等がないよう建物の維持管理を行っていきます。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	落 昌之
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:毎月、新規利用者を獲得していくために法人内の居宅や地域の居宅介護支援事業所 あんしんすこやかセンター等へPR活動を継続的に行って行く。オリンピックのイベント等の案内も行き、法人全体のアピールも行き、地域に根ざした訪問介護事業を展開していく。</p> <p>2. サービスの質の向上:円滑に業務が行えるよう、日々のスケジュールを調整していき利用者の生活を支援していく。利用者の意向や「潜在的なニーズ」を的確に把握していき、お一人おひとりに寄り添ったサービスを提供していき、その人らしい暮らしが実現できるようお手伝いを行っていく。</p> <p>3. 人材の確保・育成:サービスの質を確保するためには人材の確保が不可欠であり様々な方法により人材の確保を行っていく。研修等の機会も設け、個々の介護技術の向上を図ると共に、スタッフの全てがオリンピックの理念を実践し自ら目標を持つことにより、スキルアップを図っていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	デイサービス	報告者	富原 実治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立					
上限数の利用者を獲得する為、定期的に地域の居宅事業所やあんすこ訪問をする。					
イベント等の開催で地域の方々へもっとオリンピック鶴甲を周知して頂き新規利用者の獲得に繋げる事で					
一日平均利用者数を増加させていき、安定した収益の確保に努める。					
2. サービスの質の向上					
業務内容を精査し、スタッフ全員が利用者様おひとりおひとりの「ニーズ」や「想い」を把握して					
オリンピックの理念に基づきしっかりとお応えできる体制を常に整えておく。					
3. 人材の確保・育成					
小規模ならではの個別対応等、常に質の高いサービスを提供させて頂くために利用者数に応じての人材を					
確保していく必要がある。できる限り研修の機会を設け、全てのスタッフが目標を持ち実践していく事で個々の					
スキルアップに努める。オリンピックのスタッフとしての誇りと責任感を持って業務に就ける環境整備も行っていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2016年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	居宅介護支援事業所	報告者	落 昌之
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 介護支援専門員としての資質の向上 3. 地域交流、他事業所との連携 4. 介護予防ケアマネジメントを行う				
事業計画					
1. 財政基盤の確立: 毎月あんしんすこやかセンターや病院の医療連携室等に営業を行い、新規利用者の					
獲得を行って行く。新規利用者の獲得により、収入を増加させ財政基盤の確立を図っていく。					
2. 介護支援専門員としての資質の向上: 利用者の方が住み慣れた地域で安心して過ごして頂ける					
よう、介護支援専門員としての知識や技術を研修等に積極的に参加していき、スキルアップを図っていく。					
3. 地域交流、他事業所との連携: 圏域のあんしんすこやかセンター連絡会や灘区えがおの窓口連絡会等					
に参加し、灘区内の地域資源や情報などを収集していき、利用者の生活の質の向上に繋げていく。					
地域住民や他事業所の集まる場所へ積極的に参加する事で、オリンピックの広報を積極的に行い、					
地域の方々への認知度を高めていく。					
4. 介護予防ケアマネジメントを行う: あんしんすこやかセンターから委託を受けて、灘区等の方へ介護予防					
ケアマネジメントの提供を行う。また、あんしんすこやかセンター主催の様々な研修会等へ参加する。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホーム オリμπピア篠原	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>オリμπピア篠原がスタートしてから1年が経ち、法人、同じ灘区の「オリμπピア灘」「オリμπピア鶴甲」と協働し、地域に知っていただくため、「認知症ケア」の拠点となっていくための基礎を築く1年としてきた。ご入居者のみなさんがオリμπピアの目指す「そのひとらしい生活」を送るために、ホーム内での生活や活動の充実をお手伝いさせていただくとともに、関係を深めた町内会や地域福祉センターなどの社会資源を活用し、活躍できる場をホームから地域へと広げていただく1年としていきたい。そのためには安定した収入を確保し、新しい試みへ挑戦していける体勢を整えることと、人材の育成が必要となる。変動する社会情勢、制度の変化に対応していき、財政基盤を確立する。そしてスタッフは明確な役割を持ち、責任を担うことで成長し、活躍の場を広げることができるように指導していく。</p>		
事業計画	<p>1. 「認知症ケア」の確立: ノーマライゼーションの実現をオリμπピア篠原を中心として地域で実現していくために、内外での取り組みを強化していく。ご入居者が「その人らしい生活」を実現していくとともに、ご入居者同士の関係を深めることで共同生活としての力を高めていく。オリμπピアの理念と3つの約束をスタッフが理解し、理念を軸としたケアを実践していく。法人がおこなう講演会やサロンデル・オリμπピアを積極的に広報していくことで、認知症だけでなく高齢者福祉について地域でお困りの方へ、オリμπピア篠原へ相談できることを知っていただく。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 開所初年度は、町内会や地域福祉センターから地域の行事や取り組みにお誘いいただいた。その中で、関係を深めてきた篠原地域に出て行くための1年としたい。特に篠原地域福祉センターからは、センターの行事にご入居者が参加していくことにより、オリμπピア篠原だけでなく、オリμπピア篠原のご入居者が地域で活躍していけるために、地域との関係を強めていく。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 新しいチャレンジ、オリμπピア篠原の成長を目指すためには、安定した財政基盤の実現は必須である。そのため、収入を確実に確保していくことと、適正な支出により収支差を重要視するポイントとしたい。支出で伸びる可能性が高いのは人件費であるが、人材確保は積極的に行いたい。設備、備品など、不要な支出を無くし、予算の範囲内での支出を徹底していく。また、収入面で安定した数字を残すためには、2,3名の入居待機者を常時確保していく。広報をこれまでよりも幅を広げて、また篠原地域へ発信していくこととする。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦: 初年度は阿倍野ロータリークラブの助成金に挑戦したが、力及ばず落選となった。オリμπピア篠原で大小様々なチャレンジをするためには、できるだけ根拠が必要であり、収入のためだけでなく新しい試みを活動に移すために助成金などへのチャレンジを継続していきたい。グループホームとして、地域の認知症ケアとしての拠点になるために、外へ出るだけでなく、ホームへ地域の方を呼べるように変化していきたい。</p> <p>5. 人材の育成: 認知症実践者リーダー研修、認知症実践者研修など、計画的に受講していき体勢を整えたい。また、研修にできる限り多くのスタッフが参加することで全体の底上げをおこないたい。定期的な法人内研修だけでなく、規模は小さくてもホーム内でも勉強会のようなものをおこない、「変化していく」「成長していく」ことを意識していく取り組みをおこないたい。また、日々の仕事で明確な役割を持つていくことで、責任の大きさを乗り越えて成長していけるように、スタッフ個人としてもユニットのグループとしても成長を常に意識する場所としていく。</p>		

施設	オリンピア篠原	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 認知症ケアの確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成				
事業計画	<p>1. 認知症ケアの確立:「オリンピアの理念」「オリンピアの3つの約束」を軸にした、これまで通りの生活を実現。ご入居者が中心となって活躍していくための生活の場を作るため、理念に基づいたお手伝いをさせていただき、役割を持っていただき、個人としてだけでなく共同生活としても活動的な毎日をご過ごしていただく。</p> <p>2. 地域密着の浸透:昨年掘り起こした地域資源の中でも、町内会、地域福祉センターとは関係を深めてきている。地域の取り組みや行事に参加し、ご入居者の活動の場を広めるとともに、地域住民から相談のできる場所になっていく。お近くにお住まいだったご入居者などを通して、もっと地域へ知っていただく活動を推進していく。</p> <p>3. 財政基盤の確立:安定した収入を確保するため、常時2,3名の入居待機者確保を目標とする。適正な支出による収支差を大きくしていくことを目指す。ご入居者の体調変化に早期対応を行い、入院を未然に防いでいく。</p> <p>4. 人材の育成:自信を持って仕事をおこなえるように、それぞれの職員に合わせた研修を受けていく。特に、リーダーや、グループの中心となっていける人材を育成していくことが必要である。制度として必要な研修を確実に受け、定期的な研修だけでなく、ホーム内の勉強会などもスタッフ中心におこなっていく。</p>				